

所属・資格 社会学科・教授

申請者氏名 好井 裕明

研究課題		被爆表象のメディア社会学的研究（7）：エスノメソドロジ的な映像解読・言説解読を中心として
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>[目的]戦後72年が過ぎ被爆者の直接的な体験語りがすでに困難になりつつある現在、いかにして被爆の記憶を継承し得るのか。申請者は、被爆の「伝え方」をめぐる今こそ詳細に解読しその方法や問題点を検討した上で継承に効果的な語り方を創造すべきだと考えている。本研究ではこの関心から映画やドキュメンタリー、新聞言説などメディアにおける表象を解読し被爆をめぐる語り口(ethnomethods)を明らかにする。</p> <p>[概要]1. 今年も被爆者表象の解読作業を続行する。2. 平成21年度から6年間の科研の成果と収集してきた被爆者関連資料を利用し「被爆者」というカテゴリー化について言説分析を進める予定である。3. 上記作業に関連して社会問題や現代社会、文化をめぐる関連文献や映画やドキュメンタリー等を収集する。</p>
	研究の結果	<p>今年度は、被爆表象をめぐる直接的な解読の成果としての論文は執筆していないが、関連する社会問題として障害者表象をめぐる解読論考（「文化・メディアにおける障害者表象をめぐる」『福祉労働』第161号、現代書館、2018年12月、8-21頁）を執筆した。本論考は、福祉労働の特集「感動ポルノ」―障害者は健常者に感動を与える存在か―の特集全体を総括する巻頭論文であり、被爆者や障害者などメディアが想像してきた表象やイメージがもつ共通の問題性を簡潔に論じている。</p>
	研究の考察・反省	<p>被爆表象をめぐる最新の映像などの資料収集は順調に進んでおり、平成31年度に新たな科研基盤研究（c）を申請中である。この科研が採択されると、さらに作業は進展し、被爆表象をめぐる解読の成果としての単著を刊行する可能性は高くなる。仮に採択はかなわなかった場合でも、今収集している資料をもとにして、まとまった解読成果を出したいと考えている。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所		<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>好井裕明「文化・メディアにおける障害者表象をめぐる」『福祉労働』第161号、現代書館、2018年12月、8-21頁</p>
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		